

〔飼鳥必用 下〕小よしきり

此鳥、本所筋に澤山居鳥也、此邊に巣子有之、巣子にても來る親鳥ともに取也、至て弱鳥也、飼方鈔にて六分餌右の處にて子を生立、土用に入ると何國へか歸る也、

此鳥川筋に澤山に居也、よしの中へ巣組し子をうむ也、但シ三月より六月迄多く居鳥也、土用に入といづくへか歸る、飼方玆にて五分餌勿論此鳥を取候時は、まづ壹羽取て、右の鳥の鼻へ糸を通し、さしさほの目つぶしより五六寸さげ、右の鳥を糸にてながさ壹尺程さげて、よし切の居たる處へゑづかにさし出し候へば、さほのもちへとまる也、これを釣と云也。

〔食物和歌本草〕葭原雀

葭雀平なりちごの五六歳物をいひかねくちのおもきに 葦雀諸病にさして毒もなし鬱氣を  
散し聲出す也 葦雀常に用ひて氣力まし血をもゑづむるくすり成けり

〔散木弄譎集隱題〕たくみどりのす

ひめこまつねたくみどりのすがたをばたちへだてける春のかすみか

〔甲子夜話五十七〕成島東岳ノ話ニ、俗ニ巧婦鳥ヲミツサモキトスルハ誤ナリ、官庫ニ沈南蘋ガ繪タル百鳥圖アリ、未ダ一覽ハセザルガ、人ノ話ニテ聞ニ、遙ニ違タル鳥ナリト云、コノ頃南部ニテ取リシト云フ、巧婦鳥ノ巣ヲ見タリ、蘆花ヲ以テ作リ、其形襪ニ少シモカハルコトナシ、精細巧緻ハ目ヲ驚ス計ナリ、コノ鳥一名ハ刺襪又女匠トモ云、其巣ヲ見ザレバ其名解シ難シトナリ、南部ノ方言ニテハ、高見鳥ト云トゾ、木ノ至テ高キ所ニ巣ヲ挂クルヨリ斯ク云トナリ、

〔武江產物志〕水鳥類 剖葦小よしは淺草たんば大野邊だいのへ  
〔新撰字鏡〕鶴鳥上同非左々支。鶴聊音鶴加也久支又左々支。